

# 序

本書は、医学生物学の研究者が実際に自分の研究に使える統計学の知識を身につけるための本として企画された。最大の特徴は、『質問→答え』『問題→考え方』という形の「Q&A形式」を採用して、具体的な問題意識を持ちながら読み進め理解できるように工夫したことである。統計学の本には、名著と言われるものもあるし、わかりやすく書いたと謳っているものも多い。しかし、現場の医学生物学研究者が日々実験をしながら読むには取り付きにくかったり、原理はわかっても実際に自分の研究に応用しようとするときにどうしてよいかわからないといったケースも多いように思う。本書では、原理がわからずにExcelでただ計算するだけなどということにならないよう、統計の基礎から解説し、さらに研究者が実際の実験で遭遇するケースを多くのQとして取り上げ、それに対する具体的で懇切な解説をつけた。特に、具体例を扱った章は本書の最もユニークな部分で、類書にはないわかりやすさではないかと思う。こう書くと自画自賛めいてしまうが、筆者自身編集の過程で原稿を読んで感動した。統計の専門家でない現場の研究者が普段抱えている疑問が氷解するのではないかと思う。

上述のような独自のスタイルの原稿の作成はかなり大変で、一応の完成まで4年かかった。この間、執筆者ならびに編者には相当の苦労があったと思う。本書の作成は、羊土社編集部の蜂須賀修司氏の企画によりスタートした。全体の構成の立案から具体的なQのピックアップまでのほとんどが氏の力によるものである。良い統計の本を作りたいという蜂須賀氏の熱意と「原稿催促の鬼」吉田雅博氏の努力がなければ本書は完成しなかったであろう。執筆者と両氏に感謝したい。今後、改訂しさらに良い本にしていきたいと考えている。読者からの批判や助言を是非お願いしたい。

2012年8月

編者を代表して  
秋山 徹